



平成24年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成23年9月16日

上場会社名 株式会社ジーンズメイト 上場取引所 東
 コード番号 7448 URL <http://www.jeansmate.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西脇昌司
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 砂田真一 TEL 03-5738-5555
 四半期報告書提出予定日 平成23年9月30日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年2月期第2四半期の業績 (平成23年2月21日～平成23年8月20日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年2月期第2四半期	5,768	△24.3	△25	—	△9	—	△696	—
23年2月期第2四半期	7,616	△10.9	△748	—	△734	—	△2,236	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年2月期第2四半期	△63 72	—
23年2月期第2四半期	△204 59	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年2月期第2四半期	8,998	6,845	76.1	626 33
23年2月期	9,597	7,549	78.7	690 77

(参考) 自己資本 24年2月期第2四半期 6,845百万円 23年2月期 7,549百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年2月期	—	0 00	—	0 00	0 00
24年2月期	—	0 00	—	—	—
24年2月期 (予想)	—	—	—	0 00	0 00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成24年2月期の業績予想 (平成23年2月21日～平成24年2月20日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,840	△17.1	△220	—	△200	—	△1,100	—	△100 65

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は【添付資料】P. 4「2. その他の情報」をご覧ください。）

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	24年2月期2Q	12,651,466株	23年2月期	12,651,466株
② 期末自己株式数	24年2月期2Q	1,722,766株	23年2月期	1,722,394株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	24年2月期2Q	10,928,824株	23年2月期2Q	10,929,954株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化により予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	3
(3) 業績予想に関する定性的情報	4
2. その他の情報	4
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
(3) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	5
3. 四半期財務諸表	6
(1) 四半期貸借対照表	6
(2) 四半期損益計算書	7
(第2四半期累計期間)	7
(第2四半期会計期間)	8
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期会計期間(平成23年5月21日から平成23年8月20日まで)におけるわが国経済は、東日本大震災の影響による景気の落ち込みからは着実な回復は見られるものの、電力使用の制限や原材料価格の高騰、さらには急激な円高などにより個人消費を含めた景気の先行きは依然として不透明な状況でありました。

このような経営環境のもと、当社では業績回復のために収益構造の改善を図るべく、既存業態の建て直しと新たなビジネスモデルの構築・拡充に取り組んでまいりました。

商品面におきましては、盛夏商材であるショートパンツやクール素材のイージーパンツ及びシャツ類などにおいては一定の成果を上げることができました。しかしながら、依然としてデニム5ポケットが苦戦していることに加え、本来この時期の柱となるべき半袖Tシャツ類の売上が前年を大きく下回ったことなどにより、ボトムス部門売上高11億15百万円(前年同四半期比20.2%減)、トップス部門売上高13億41百万円(前年同四半期比27.6%減)、小物部門売上高6億82百万円(前年同四半期比20.2%減)と各部門ともに厳しい結果となりました。一方では、当期より商品政策の転換を進め、付加価値の向上を図るとともに低価格商品の取扱いや価格訴求販売を抑制したことなどにより、売上総利益率は改善させることができました。

販売面といたしましては、クール素材のパンツを対象に試着するだけでポイントをプレゼントする「お試しキャンペーン」や次回のお買物で使える「レシートクーポンキャンペーン」などを実施するとともに、ファッション雑誌や交通広告などへ出稿し、既存業態の建て直しに取り組んでまいりました。また、新業態の「PLAINN(プレーン)」、「blue bell market(ブルーベルマーケット)」につきましては、売場や商品の修正を重ねながら認知度を向上させるよう取組みを開始いたしました。

その他、これまで2フロアで営業していた本社事務所を7月より1フロアに集約するなど固定費の圧縮も進めてまいりました。

出退店につきましては、出店が2店舗、退店が4店舗、業態変更が1店舗となり、当第2四半期会計期間末の総店舗数は110店舗となりました(「JEANS MATE」91店舗、「ワケあり本舗」9店舗、「Happy Door」5店舗、「ゼログラ」1店舗、「PLAINN」2店舗、「blue bell market」2店舗)。なお、24時間営業店舗は17店舗(すべて「JEANS MATE」)となりました。

以上の結果、当第2四半期会計期間の売上高は31億39百万円(前年同四半期比23.5%減)、営業利益は79百万円(前年同四半期は営業損失2億20百万円)、経常利益は88百万円(前年同四半期は経常損失2億12百万円)、四半期純利益は29百万円(前年同四半期は四半期純損失4億38百万円)と黒字化することができました。

当第2四半期累計期間の売上高は57億68百万円(前年同四半期比24.3%減)、営業損失は25百万円(前年同四半期は営業損失7億48百万円)、経常損失は9百万円(前年同四半期は経常損失7億34百万円)となりました。また、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額3億60百万円、減損損失2億81百万円を計上したことなどにより、四半期純損失は6億96百万円(前年同四半期は四半期純損失22億36百万円)となりました。前年同四半期に比べ、客数の減少などにより大幅な減収となりましたが、商品政策の見直しや固定費の圧縮などにより、利益面では改善させることができました。

(2)財政状態に関する定性的情報

(資産)

当第2四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ5億98百万円減少し、89億98百万円となりました。

流動資産は、前事業年度末に比べ10億52百万円減少し、60億37百万円となりました。これは主に有価証券が4億10百万円減少、現金及び預金が3億88百万円減少、商品が2億25百万円減少したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べ4億54百万円増加し、29億61百万円となりました。これは主に敷金及び保証金が1億46百万円減少しましたが、投資有価証券が5億3百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末の負債合計は、前事業年度末に比べ1億5百万円増加し、21億53百万円となりました。

流動負債は、前事業年度末に比べ4億28百万円減少し、12億83百万円となりました。これは主に店舗閉鎖損失引当金が1億13百万円減少、支払信託が1億7百万円減少、買掛金が1億7百万円減少したことによるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ5億33百万円増加し、8億70百万円となりました。これは主に資産除去債務を5億28百万円計上したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末の純資産合計は、前事業年度末に比べ7億4百万円減少し、68億45百万円となりました。これは主に四半期純損失を6億96百万円計上したことによるものであります。

(キャッシュ・フローの状況の分析)

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)の残高は、前四半期会計期間末に比べ5億6百万円減少し、22億22百万円となりました。

当第2四半期会計期間における各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、1億71百万円(前年同四半期は4億71百万円の獲得)となりました。これは主に仕入債務の減少による支出が4億93百万円となりましたが、たな卸資産の減少による収入が6億36百万円となったためであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は、6億76百万円(前年同四半期は2億34百万円の獲得)となりました。これは主に有価証券の取得及び償還に伴う純支出が6億10百万円となったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は、期末配当を行わなかったことにより0百万円(前年同四半期は5百万円の支出)となりました。

(3)業績予想に関する定性的情報

当第2四半期累計期間における業績の進捗を勘案し、業績予想の見直しを行なった結果、平成23年4月1日の当社「平成23年2月期決算短信〔日本基準〕(非連結)」にて発表いたしました平成24年2月期第2四半期累計期間業績予想及び通期業績予想を修正いたしました。当該予想に関する詳細は、平成23年9月9日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. その他の情報

(1)簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

1. 簡便な会計処理

①固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、事業年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

2. 特有の会計処理

該当事項はありません。

(2)会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

(会計基準等の改正に伴う変更)

資産除去債務に関する会計基準の適用

当第1四半期会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、営業損失、経常損失がそれぞれ7百万円増加し、税引前四半期純損失は3億68百万円増加しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は5億58百万円であります。

(3) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社は、前事業年度において営業損失11億22百万円、当期純損失29億61百万円、営業キャッシュ・フロー7億1百万円のマイナスとなり、当第2四半期累計期間においても営業損失25百万円、四半期純損失6億96百万円、営業キャッシュ・フロー2億66百万円のマイナスとなりました。当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当該状況を解消又は改善すべく、販売力強化と経費削減による収益力の回復に取り組んでまいります。

①品揃えの拡充と売場の再構築

従来より取扱っておりますカジュアル衣料につきましては、価格訴求中心のものから付加価値の高い商品への転換を進めております。また、前事業年度に譲り受けたバラエティショップ「Happy Door」との連携を強化し取扱商品の幅を広げていくことで、量販型の売場からコーディネートをはじめとしたライフスタイルを提案する型へ売場を変更し、幅広いお客様からの支持を得られるよう努めてまいります。

②ワケあり本舗業態の確立

前事業年度よりロープライス(アウトレット)業態として営業を始めた「ワケあり本舗」は、一定の集客効果が確認できたことから、商品構成等の検証を行ないながら、新たな収益モデルとして確立するよう引き続き努めてまいります。当第2四半期会計期間には2店舗の新規出店と「JEANS MATE」からの業態変更を1店舗行ない、店舗網の拡大に着手した結果、当第2四半期会計期間末で9店舗となりました。

③新業態店舗の開発

多様化しているお客様のニーズに応えるべく、年齢や性別などのターゲットを明確に絞り込んだ新たな業態を開発してまいります。これまでは、マスマーケットに向けた「JEANS MATE」、ロープライス型の「ワケあり本舗」、女性の生活を楽しくする「Happy Door」などを展開してきましたが、新たな業態の開発によりお客様のニーズに細かく対応してまいります。当期より、メンズ業態の「PLAINN(プレイン)」及びレディース業態の「blue bell market(ブルーベルマーケット)」の運用及び販売動向等の各種検証を開始いたしました。

④不採算店の撤退促進

前事業年度では合計16店舗を閉鎖いたしました。引き続き店舗ごとの業績について検証を行ない、将来性の乏しい店舗については撤退を促進し、経営資源を集中させてまいります。当第2四半期会計期間には4店舗を閉鎖し、当第2四半期累計期間では合計6店舗を閉鎖いたしました。

⑤固定費のさらなる圧縮

前事業年度には早期退職優遇制度(109名退職)や営業時間の見直し(24時間営業の短縮32店舗)などを行ない、当第2四半期会計期間には本社事務所の縮小を行ないました。今後につきましても、物流コストをはじめ各種経費の削減に努めてまいります。

上記を中心とした施策を講じながら収益力の回復に努めてまいりますとともに、今後の運転資金は十分に確保できていることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期会計期間末 (平成23年8月20日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成23年2月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,853,086	2,241,971
売掛金	164,194	129,482
有価証券	1,786,393	2,197,080
商品	2,070,509	2,295,823
その他	163,378	225,877
流動資産合計	6,037,562	7,090,236
固定資産		
投資その他の資産		
投資有価証券	550,582	47,374
敷金及び保証金	2,297,075	2,443,959
長期未収入金	304,565	300,065
その他	108,440	15,757
貸倒引当金	299,565	300,065
投資その他の資産合計	2,961,098	2,507,091
固定資産合計	2,961,098	2,507,091
資産合計	8,998,661	9,597,327
負債の部		
流動負債		
支払信託	251,252	358,405
買掛金	309,078	416,182
賞与引当金	72,679	60,659
ポイント引当金	168,716	195,137
店舗閉鎖損失引当金	29,806	142,972
その他	452,115	538,292
流動負債合計	1,283,650	1,711,651
固定負債		
資産除去債務	528,186	-
長期未払金	335,877	335,877
繰延税金負債	-	292
その他	5,940	-
固定負債合計	870,003	336,169
負債合計	2,153,653	2,047,821
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,015,812	2,015,812
資本剰余金	2,125,434	2,125,434
利益剰余金	3,970,731	4,667,068
自己株式	1,259,332	1,259,234
株主資本合計	6,852,645	7,549,080
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	7,551	426
繰延ヘッジ損益	87	-
評価・換算差額等合計	7,638	426
純資産合計	6,845,007	7,549,506
負債純資産合計	8,998,661	9,597,327

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成22年2月21日 至平成22年8月20日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年2月21日 至平成23年8月20日)
売上高	7,616,752	5,768,227
売上原価	4,383,205	2,890,558
売上総利益	3,233,546	2,877,668
販売費及び一般管理費	3,981,911	2,902,964
営業損失()	748,365	25,295
営業外収益		
有価証券利息	16,951	8,726
受取賃貸料	-	4,686
その他	4,055	8,872
営業外収益合計	21,007	22,284
営業外費用		
投資事業組合運用損	6,841	1,113
賃貸費用	-	4,686
その他	331	591
営業外費用合計	7,172	6,391
経常損失()	734,530	9,402
特別損失		
減損損失	1,276,876	281,101
店舗閉鎖損失	-	17,475
店舗閉鎖損失引当金繰入額	19,460	5,806
特別退職金	182,633	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	360,519
特別損失合計	1,478,969	664,903
税引前四半期純損失()	2,213,500	674,305
住民税	22,681	22,030
四半期純損失()	2,236,181	696,336

(第2四半期会計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期会計期間 (自平成22年5月21日 至平成22年8月20日)	当第2四半期会計期間 (自平成23年5月21日 至平成23年8月20日)
売上高	4,106,106	3,139,804
売上原価	2,391,394	1,626,202
売上総利益	1,714,712	1,513,602
販売費及び一般管理費	1,935,388	1,433,645
営業利益又は営業損失()	220,676	79,957
営業外収益		
有価証券利息	7,895	6,182
受取賃貸料	-	2,970
その他	1,770	3,012
営業外収益合計	9,665	12,164
営業外費用		
投資事業組合運用損	955	234
賃貸費用	-	2,970
その他	158	219
営業外費用合計	1,114	3,423
経常利益又は経常損失()	212,124	88,698
特別損失		
減損損失	32,183	31,451
店舗閉鎖損失	-	10,987
店舗閉鎖損失引当金繰入額	-	5,806
特別退職金	182,633	-
特別損失合計	214,816	48,245
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失()	426,941	40,452
住民税	11,501	11,097
四半期純利益又は四半期純損失()	438,443	29,355

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成22年2月21日 至平成22年8月20日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年2月21日 至平成23年8月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失()	2,213,500	674,305
減価償却費	55,495	13,431
減損損失	1,276,876	281,101
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	360,519
賞与引当金の増減額(は減少)	11,263	12,019
ポイント引当金の増減額(は減少)	8,898	26,420
株主優待引当金の増減額(は減少)	22,015	-
店舗閉鎖損失引当金の増減額(は減少)	19,460	113,166
受取利息及び受取配当金	17,349	8,924
投資事業組合運用損益(は益)	6,841	1,113
売上債権の増減額(は増加)	36,383	34,711
たな卸資産の増減額(は増加)	570,850	225,314
仕入債務の増減額(は減少)	200,122	214,257
その他	271,127	51,905
小計	291,085	230,190
利息及び配当金の受取額	18,508	3,834
法人税等の支払額	28,717	39,817
営業活動によるキャッシュ・フロー	301,295	266,173
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	590,782	2,041,005
有価証券の償還による収入	1,108,235	1,752,633
有形固定資産の取得による支出	82,008	84,407
無形固定資産の取得による支出	16,257	1,636
投資有価証券の取得による支出	-	511,190
投資有価証券の売却による収入	304,560	-
投資有価証券の償還による収入	-	1,000,000
敷金及び保証金の差入による支出	82,529	64,459
敷金及び保証金の回収による収入	45,924	228,897
事業譲受による支出	54,735	-
その他	5,999	99,977
投資活動によるキャッシュ・フロー	626,407	178,855
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	507	98
配当金の支払額	54,675	1,334
財務活動によるキャッシュ・フロー	55,183	1,433
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	269,928	88,751
現金及び現金同等物の期首残高	2,119,266	2,311,021
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,389,194	2,222,269

(4)継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5)株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。